

TGU 体育会 監督会報

2004年を迎えて

監督会長 佐藤 正（自転車競技部）

新年明けましておめでとうございます。

監督の皆様におかれましては、今年の躍進を期して新たな気持ちで新年を迎えられたこととお慶びを申し上げます。

監督会は平成3年に小藤バスケットボール部監督を初代会長として発足してから早や13年が経ちます。その間、強化に向けての難問山積み状態でありましたが、数年前から導入されました入試における強化指定部制など完全とは言えないまでも大学当局の理解度は以前に比べ相当の前進であったと思います。これからも監督各位のお知恵と行動力をお借りしながらよりよい学生の育成に努めてまいりたいとの意を強くしているところであります。

さて、われわれ指導陣は各競技の指導に常に頑張っていることはもちろんですが、学業での指導の必要性も痛感します。特にここ数年の傾向として2単位や4単位の単位不足で3年に進級できない学生が少なからず増えているようです。いわゆる原級止という制度ですが、一科目、二科目不足で来年も2年生、と言うのは、学生の努力不足と言えばそれまでですが、指導陣も本人、親同様に相当のショックであります。スポーツ学生以外でもこの数単位不足から退学する学生が増えているようですが、他大学のように4年生までは進級できる制度はできないものだろうか。新年早々いろいろと考えます。

昨年の総会において、長い間、監督会をまとめ発展させてくれた工藤哲男会長から会長のバトンタッチを受けました。微力ではありますが各監督さんからの後押しをいただきながら本学スポーツの発展のために努力してまいりたいと考えております。今年一年の各部の尚一層のご活躍をご祈念申し上げます。

更なる発展に向けて

学生部長 柴田 良孝（文学部教授）

新年明けましておめでとうございます。

監督会の皆様には、本年も変わらぬご指導のほどお願い申し上げます。

さて、昨年12月恒例の体育会主将主務研修会を実施いたしました。例年は、新主将・主務のみの出席を要請し、講演の他諸手続きなどの説明を中心におこなわれていました。しかし、このたびは、特に3年生以下の体育会学生全員に出席を呼びかけ、私から「体育会学生の基本的心構え」と

いうテーマで話をさせていただきました。

今回、特にこのような企画を立てましたのは、ここ数年、体育会にとっては、極めて残念な、憂慮すべき事柄が起きたからであります。その憂慮すべき事柄の原因として考えられるのは、集約すれば、本学における課外活動の位置付けに関わる認識の甘さ、あるいは体育会系などと言われる歪められた部活動の体質の是認にあるのではないかと考えられます。そしてこれらは、競技活動をしていれば、ほかの事は大目に見てもらえる、援助してもらえる、あるいは、大学の名誉を高めることになるのだから、それが当然だなどと思う極めて残念な、甘えの発想が根底にあるようです。

これらの事柄を、具体的に即して学生諸君にお話をし、体育会学生としての意識の改革を促したつもりです。今年1年は体育会に関わるすべての者が、真摯に反省し、活動の基本に関わる考え方を、本学という環境の中で再認識する必要に迫られていると思われまます。そしてそれも喫緊の課題であると思われまます。

6月には、北海学園大学との総合定期戦が第50回の記念大会を迎えます。この機会を単なる過去の積み重ねの記念に止めることなく、新たな出発とするためにも、私たちの体育会活動の健全な姿を刻印する年とすべきです。

新年度へ向けて

体育会長 渡部 敏 (教養学部教授)

新年明けましておめでとうございます。

本年度の体育会は、監督会の皆様の協力とご支援の下に数々の成果を上げるとともに、いくつかの悲しむべき出来事を経験いたしました。これらは表裏一体を成すものですから、しっかり受け止めて新年度の活動に向けて精進いたしたいと思ひます。

監督会からは、とくに要望として、選手諸君の部活動に加えて学業に対する大学側の支援があげられました。これは、現行の制度からすれば、なかなか難しいことであり、解決には長時間かかると思われまます。そこで、ここでは連取活動と学習活動との調和についての、一つの提案をしたいと思ひます。

私たちは三つ同心円でできていると考えられます。第一の外側の円で、各人の身体・環境を表すと、この面で練習活動も学習活動もいたします。第二の中間の円で、潜在意識＝意識活動を表すと、外部の円の諸活動はここで制御されています。私達はここの働きで勤勉に努力することも怠けて暮らすことも自由自在に選択しています。第三の一番内側の円は、私達の潜在意識＝生まれてから経験してきた体験を含む広大な領域を表します。私達の潜在意識の働きいかんが、私達の人生を大きく左右しています。しかし、この働きはよく知られておりません。それにもかかわらず、潜在意識は生産的であり、意識から与えられたものを実現しようとする力に満ちています。

意識と潜在意識との関係は、簡単には言えないですが、次のようにすれば潜在意識に働いてもらうことが出来るようです。まず達成したい目標に意識を集中して努力すると、それは潜在意識の中に取り込まれます。取り込まれた目標は、なるべく行動的で具体的なものであるといいのですが、何度も何度も繰返し考え調査し、工夫をし続けることによって、潜在意識の中に取り込まれ、機会がくると、何気なく表に結果として現れます。古今東西の発明発見物語の経験を仔細に調べるとそのような事例が多数見うけられます。

そこで提案です。第一に、部活動にも学習活動にもしっかりとした目標を立てること。第二に、これらを心に刻み込むこと（例えば紙に書いていつも読むとか、目に付く所に貼っておくとか）。この二つのことを選手諸君に勧めて、スポーツにも学習にも活動するようにはいかがでしょうか。先輩で特別表彰された選手たちはきっとその達人だったのではなかったのでしょうか。これが選手諸君の今後の人生行路に役立つといいのですが。

末筆ながら皆様のボランティア活動に感謝するとともに、本年も体育会のためにご協力を下さいますよう、よろしくお願いいたします。

会長を辞して

前監督会長 工藤 哲男（ラグビー部）

明けましておめでとうございます。

監督会発足より、10数年が過ぎようとしていますが、昨年度で私も会長を辞任いたしました。約10年に亘り、大学関係者及びスタッフ、各部監督の皆様のご協力をもって無事に務めさせていただきましたこと誠に感謝致しております。

思えば、発足当時は体育会推薦入試では倍率も高く、合格も結構難しい時代でしたが、その後監督会ができました。各部の監督と話し合いもできるようになり、また大学でも強化指定部制の導入など、様々な改革に乗り出しました。その結果、今では、学部、学科を選ばなければ、十分合格可能になったと思います。

これからも監督会と学生部が一致協力していけば、更なる体育会の発展につながっていくと信じています。最後に、各監督の皆様へ、権利の主張も大いに結構、しかし乍ら義務もしっかり果たしましょう！！ほんとうに長い間ありがとうございました。

監督卒業の記

柔道部前監督 高橋富士男（柔道部師範）

昨年の平成15年3月をもって約20年間の監督業を卒業しました。それから一年近く経ちますが精神的にはずいぶんと楽になりました。今でも学生の朝トレには毎日付き合っていますが、先ず何より目覚めがよくなりました。朝トレは私の後任の阿部監督が率先してやっていますので、私は老犬を連れて6時前に行ったり、その後に行ったりと気楽にやっていますが、学生にとっては「挨拶の声が高い」だの「目を覚ませ」だのと言われてさしずめイジワル爺さんの存在であるかもしれません。

柔道部はもちろん監督が中心で学生の指導にあたっていますが、とにかく朝のトレーニング、道場での稽古は毎日指導陣で必ず見よう、ということで今日までできました。もちろんそれぞれの仕事から見れない日も幾日かはありますが、そんな時はいつも頭の中は、サボってないか、とかケガ人が出てないか、とかいつも心配でした。そんなことから冒頭に監督「業」と敢えて記した次第です。

昨年は監督卒業をいいことに、東北大の道場に顔を出したりしましたが、これからは少し広角レンズで学生柔道を見てみたいとの思いが強いものであります。

さて、監督会の誕生についてはいろいろなことがありましたが、初代の会長にバスケ部の小藤さん、その後にラグビーの工藤さんに会長に就いてもらい今日まで引っ張ってもらいました。その間、腰が重いというか、聞く耳を持たないような大学当局との交渉は大変でありました。制度的にはまだ発展途上ではありますが、その中でも二つの大きな成果があったと思っております。一つは体育会長を副学長か学部長クラスにしてほしいとの要望に応じてくれたこと。二つ目は強化指定部制の制定であります。特に強化指定部制の導入は本学にあっては画期的なことでもあります。柴田学生部長以下体育会に携わる先生方のご苦労たるや大変なものであったと推察されます。この制度についてはその指定を受けた部とそうでない部の指導陣の確執が心配でありましたが、それは当初は仕方がないことだと思っておりました。とは言いつつも私は事務局を会発足当時から担当してきましたので、その溝を埋めるべく入試に際して各部の過去10年間の合格者数のデータを出しました。そして、その数字に合わせた受験者数で調整すればほぼ全員合格できる旨を会長を通じて何回も話をしました。実際に数回にわたり調整の会議を開いたのですが、出欠の連絡もないままに欠席の監督もいてほとんど困りました。これら調整は全員が集まって初めて可能なことでもあります。今年も数部が突出した志願者数であったようです。残念なことです。また、強化指定部にとっても指定部以外のことを考えたらやはり強化部らしい対応が必要と思います。不祥事があれば自ら辞退するくらいの心構えは必要でありましょう。

いろんなことを書きましたが、やはり監督さんはいかに現場に多くいるか、に尽きます。入試の時だけ声を大きくするのではなく、監督会等に顔を出していろんな意見を言ってほしいものです。

三代目の監督会長に就かれた佐藤監督は工藤前会長と同様に、本業そっちのけの熱き指導に本当に頭が下がります。監督会の運営にもこれまで積極的に関わってこられましたし、これからの活躍に大きな期待を寄せております。

私の後任の阿部文智監督については、卒業後は地元の役場か何かに就こうと思っていた彼を、学院の職員を先ずは受験しろ、と言って私の後継に方向転換をさせた経緯があります。安心をして監督を任せました。彼が学生の頃は我が柔道部の全盛時代で、在学中に東北地区では負知らずで全日本学生大会でも団体で3年連続で夢のベスト8への挑戦をしてくれました。その後に数名の有望選手を不合格にしてからは高校指導者の「学院ごときで落とされた」との酷評からまだ立ち直れないでおりますが、昨年あたりから上昇気流です。東北の各大学も相当の力を入れてますので地区予選の突破も安心できない現状ではありますが、若い指揮官であと5年後の創部90周年に向けて文武両道の常勝チームを作りたいとの強い気持ちであります。

サッカー部の近況

サッカー部監督 松原 悟

インカレ2回戦、対福岡大学戦のことです。相手は、国見高、東福岡高、鹿児島実業と高校の強豪出身者。おまけにFWには強化指定選手としてJリーグの大分でもプレーしている選手を抱える強敵でした。0-4の完敗でした。後半途中交代の選手は涙を流しながらベンチに下がりました。試合終了と同時に、ピッチを後にする選手を出迎えたのですが、握手をするのが精一杯で、皆涙をこらえながら控え室に戻りました。控え室では全員が涙を流しておりました。試合での悔しさだけ

でなく、まさしく「万感胸に迫る思い」だったようです。久々にこんなに泣く選手たちを見て胸が熱くなり、思わず自分まで涙が出そうで、慌てて外に出ました。

最近の学生達は情熱が感じられないとか、感情が見えない、何を考えているか判らないとか言われますが、どうしてどうして、やっぱり熱いものがありました。

ラクロス部の2003年

ラクロス部監督 佐藤 和香

春・・・男子は10名以上の多数の新入部員を迎え、見通しも明るかったが、女子は3名という厳しい状況のスタートとだった。

初夏・・・北海学園大定期戦が開催され、男女とも北国へ旅立った。結果は男女とも負けてしまったが、揃って開催できるのは3年ぶりだったので、雨には降られたが今のチームにはいい経験となった。

夏・・・東北リーグ戦が開幕した。男子は開幕試合に抜擢され新潟大学と対戦。敗れはしたものの1、2年生の活躍が目立ち会場を沸かせた。女子は初戦の新潟大に敗れ、厳しいスタートだったが続く岩手大、宮城大戦で勝利を収め、決勝トーナメントへの期待がかかった。

秋・・・リーグ戦中盤、絶対に落とせない宮城学院大戦に敗れ、女子は決勝トーナメント進出を逃し、予選ブロック3位という不本意な結果となった。男子もリーグ4位という成績で終わった。

しかし、個人的にはリーグ戦が終了後に、男子では経済2年の山本と経済1年の鳴海が、女子では英文2年の菅原の各選手がそれぞれ新人賞を受賞した。この快挙が来年の好成績に繋がることを期待している。

11月初めに第3回のOBOG戦が開催された。学生の準備と各部の協力により、学院大グラウンドで楽しくプレーをし今シーズンを締めくくった。

最後に

我がラクロス部の現状は、部員の確保が難しいこともあり、全国どころか東北地区内でもトップチームとは言えないが、こらからも他大学や私の所属しているクラブチームとの合同練習や試合を通じてレベルアップに努めていきたい。

ライフル射撃部の近況と監督会

ライフル射撃部監督 栗野 真

部創立より40余年、ここ数年のライフル射撃部の成績は関東女子学生選手権及び全日本女子学生選手権において個人・団体ともに優勝。全日本学生選手権では27年ぶりとなるAR団体第2位を獲得、また昨年は東日本学生選手権総合5位、関東学生選手権総合6位にて9年ぶりとなる関東一部校(7校)復帰を果たし、更には全日本学生選手権でも総合8位とすばらしい結果を残すこと

ができました。数ある大会の中でもベスト5に入るこれら大会での成績は選手諸君の活躍もさることながら、それらを支えて頂きいたすべての人達の成果だと強く思うところであります。

私は監督を務めてから今年で22年目に入ります。コーチ時代を含めると27年目を迎えようとしております。その間部員が3名という時代がありました。一時期2名という時もあり競技の性格上すぐに大会に出れるものではないだけにとても困り果てた思い出があります。部の存続すら危ぶまれ一体どうしたら良いものか随分悩みましたがこのような時、周りの厚い励ましと選手達の前向きな部活動の姿に大変勇気づけられたこと等は今でも忘れることはできません。

その後幾多の経緯を経て監督会が設立され、その中で体育会全体の発展には何が必要かという議論がされ始めたことは現場を預かる我々にとってとてもこころ強いことでした。またそれらに正面からしっかり対応して頂いた、とりわけ学生部の方々のご努力には心から感謝致すところです。そして更にそれに呼応するように監督会という組織の中で各部の更なる発展を考えると今後私たちは何を成すべきかということであらためて思い馳せなければならないと思います。限られた時間という制約の中で各監督さんの環境もさまざまありますが、これからも監督会の一員として共に知恵を出し合い、その向上・発展に努め各部のより良い環境が整えられるよう努力してまいりたいと思っております。

後輩諸君へ

ライフル射撃部OB 坂本 健 (平成15年3月卒)

先日、監督から電話があり、大学時代の思い出や現在の近況、学生に伝えたいことなどを書いてほしいと頼まれました。このことをきっかけに大学時代の写真を見ているいろいろなことを思い出しました。ライフル射撃部に入り、個性豊かな先輩方や同輩、後輩と知り合うことができました。その中で生活面や礼儀作法などを教えていただいたり、また射撃が上手くいなくて怒られたり落ち込んだり、そして部活動以外の時間で部員達と大騒ぎしたことなどいろいろなことが思い出されます。このことは今ではとてもいい思い出となっていますが、同時に今の生活の糧となっていて、とても有意義な大学生活を過ごせたと思っています。

私は現在、出身地の栃木で高校の講師をしています、高校生を見ていると明るく活発で楽しい生活を送っているなと思う反面、生活態度や礼儀がほとんどできていなくて、これから社会に出て行くのに大丈夫かなという不安もあります。また、学校では企業の会計や取引を行なう総合実践という模擬授業や、一般企業の人を講師として招き礼儀作法を教えていただくという特別授業があります。その中で射撃部で教わったことがそのまま授業の内容になっていて、社会に出ても使えるということがはっきりわかりました。大学時代は、ただこうやれと言われたからやった、こうする決まりだからこうした、とその意味までも考えずにやっていた礼儀作法や生活態度は、実際に社会に出ても役に立ちます。今の学生のみなさんも、何も考えずに当たり前のようにやっている礼儀や生活には実際に役立つものなのでもう一度よくその意味を考えて実行してみたいかがででしょうか。

また、大学生というのは、社会に出る前の準備期間であると同時に、最高に楽しいことのできる期間だと思います。社会に出てからは自分の時間がなくなります。今の『時』を思う存分楽しんでください。

et cetera

- 大学人事

平成 16 年 4 月 1 日付けで大学長に星宮望氏（東北大学前副学長）、法学部長に斎藤誠氏、教養学部長に佐々木俊三氏（体育会副会長）が就任する。

- 対北海学園大定期戦第 50 回記念大会

競技日程 6 月 12 日（土）12:00 対面式（西公園）
12:30 パレード
15:00 開会式（土樋キャンパス礼拝堂）
16:00 試合（土樋キャンパス）
18:00 第 50 回記念祝賀会（仙台国際ホテル）

6 月 13 日（日）12:00 試合

6 月 14 日（月）10:30 試合（各キャンパス）

15:00 閉会式（泉キャンパス礼拝堂）

競技、祝賀会のほかに記念事業として記念植樹、記念誌「熱きたたかい-50 年の軌跡」が発刊される。（平成 16 年 10 月発刊）

- 体育会出身者の博士号取得

ラグビー部で活躍した高橋信二氏（平成 10 年教養学部人間科学専攻卒～筑波大大学院博士課程）が筑波大学から博士号（運動生理学）を授与された

- ラクロス映画の公開

平成 16 年 2 月にラクロスの映画「ドラッグストア・ガール」が公開される。脚本は宮藤官九郎氏でラクロスをあまり知らない人に観てもらいたい（佐藤監督）、とのこと。

編集後記

平成16年度スポーツ推薦入試も無事おこなわれ、明日のT Gスポーツを担う新戦力112名が合格しました。そして大学人事においては記事内でのご紹介のほかに、柴田学生部長、渡部体育会長がこの3月をもって退任されるとのことでもあります。両先生には監督会行事にはすべてご出席をいただき、我々からの要望にも耳を傾けていただきました。親身になっての多々のご指導に対し大きな謝意を示す次第です。

さて、今回で5号となりました本会報ですが、投稿が少なく発行に向け一時本気でアセリました。学生に対しての監督独自の指導法や有望選手の紹介などをしていただければパソコンへの指も自然と動くのですが・・・。新年度からの新事務局長のもとで情報量たっぷりの会報発行に是非ご協力ください。

この不景気で指導も何かと大変と思います。しかし監督会は年数回の集まりです。現場監督同士の懇親が目的であります。垣根のない楽しい交流の場でありたいものです。お互い頑張りましょう！（事務局）

2004

東北学院大学体育会監督会

土 樋：980-8511 仙台市青葉区土樋 1-3-1

泉：981-3196 仙台市泉区天神沢 2-1-1

多賀城：985-8537 多賀城市中央 1-13-1

監督会事務局 TEL022-264-6422

<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp>